1　株式会社　早野組

～快適で豊かな環境づくりのために～

株式会社早野組は山梨県甲府市に本社を構える総合建設業者である。

従業員276名のうち有資格者は
技術士：2名
一級建築士：23名
一級建築施工管理技士：58名
一級土木施工管理技士：89名
一級舗装施工管理技術者：31名
宅地建物取引士（合格）：10名
となっており、「真心と確かな技術で常にお客様に満足していただける製品を提供する。」という品質方針を掲げている。

経営理念は『地域に根差した総合建設業として、社会資本の整備と公共の福祉に貢献することにより、社是「和」の下にお客様・社員・パートナー会社などすべての関係者の幸せを達成すること』である。

≪レポート作成者≫
山梨学院大学　経営学部　市川夏帆（いちかわなつほ）

古屋ゼミナールでは『地域振興』をテーマに学生が主体となり活動を行っています。

取材前の私にとってSDGsは「難しいもの」というイメージでした。

2　株式会社　早野組

2022年4月1日に『HAYANO SDGs宣言』
― 早野組のSDGs達成に向けた4つの柱 ―

安全を第一に全社員の誇りと責任

・パトロールによる安全確認
・年齢・性別関係なく仕事に対する誇りと責任をもって取り組む
↓
キーワードは『会社は人なり』

社会貢献・地域貢献活動への積極的な参加

・各種団体への協賛やフードバンク山梨
・清掃活動など様々な形で地域社会に貢献
↓
会社も地域社会の一員であるという自覚を持ち、住みやすさの実現を目指す

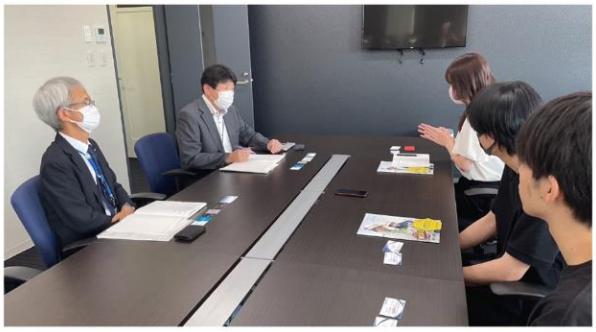
早野組のプロジェクトが未来を変えてゆく

・土地や水質などをDXやICTを使って管理する
・インフラ整備・事故の起こりにくい環境づくり
・地域住民や周辺環境への配慮
↓
緑と都市が共存した豊かな社会の構築を叶える

環境を守る行動の実践

地球温暖化等の環境問題への対策
（節水・節電・リサイクル・再生可能な資源やエネルギーの活用など）
↓
環境に対して責任を持った行動をする

3 株式会社　早野組



INTERVIEW

未来に向けた取り組み

早野組とSDGs

学生　社是の「和」にはどのような意味が込められているのですか？

早野組　お客様・社員・パートナー会社などすべての関係者の和（輪）という意味があります。

学生　なるほど、和とはつながりを意味しているのですね。
SDGsの取り組みを始めるきっかけはありますか？

早野組　世間でSDGsという言葉が広まり、自分たちでも勉強していくなかで、うちの会社は既にSDGsにつながる取り組みをしていることに気づきました。そこから社内でもさらに徹底していくために「SDGs宣言」をしました。

学生　なるほど、今まで行ってきたことが実はSDGsに繋がっていたのですね！
では、どのようにして社内にSDGsを推進していったのですか？

早野組　まず部門毎にSDGs推進委員を決めました。その後、社員全員が取り組みを理解するためにホームページに掲載したり、研修を受けてもらい、テストを行ったりしました。

学生　テストですか！なんだか難しそうですね。

早野組　このテストによってSDGsの取り組みについて社外の人たちに聞かれたときに社員全員が最低限応えられるようにしました。
まずは自分たちからしっかり理解しようという社員一人一人の意識を大切にしています。

4 株式会社　早野組

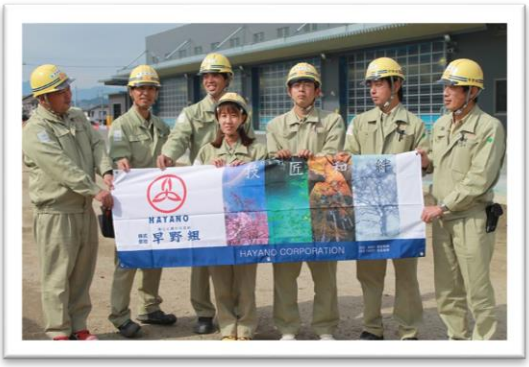
学生　SDGs宣言をしたメリットは何かありますか？

早野組　従業員にとって自分たちの取り組みが持続可能な社会の実現に役立っていると実感することは意識やモチベーションアップにつながっていると思います。
あとは、SDGsを宣言しているかどうかがステークホルダーの取引条件になっていることが多いこともメリットの１つかと考えております。

学生　SDGs宣言が取引条件になっているとは驚きました！
競合他社がいると思いますが、有利になるということでしょうか。

早野組　競合他社よりも私たちはすべての関係者との「和」を大切にしてきたので、そこはあまり考えていないですね。

学生　「和」を大切にしているからこそ、地域に根差した会社になったのですね。



学生　では最後に、これからの取り組みや挑戦したいことを教えてください。

早野組　一番は今までの取り組みを今後もしっかりと継続していきたいですね。地域に根差した今までの取り組みがこれからの未来に直結していくのだと思います。

～取材をして～

SDGsに対しての「難しいもの」という認識が「当たり前なもの」に変わりました。

今も昔も変わらずにすべての関係者との繋がりを大切にしてきたからこそ、早野組さんは地域から信頼され、愛されているのだと思います。

早野組さんのように、今までの取り組みを振り返ってみると実はSDGsに繋がっていたということがあると感じました。

1 マイプラ対策室

～パートナーシップでSDGsの課題達成～

特定非営利活動法人マイプラ対策室は山梨県甲府市に事務所を構えるNPO法人です。

代表者：藤原行雄さん
設立年：2019年3月20日

2018年にマイクロプラスチックによる環境汚染がクローズアップされたため、このマイクロプラスチックの削減を行う事を事業目的としています。

マイプラ対策室では『誰一人取り残さない』、『パートナーシップでSDGsの課題達成』という理念を掲げ、FSC認証を受けている山梨県有林の木材を使い、地球に優しい製品として紙ストローや紙ハンガー、やまなし森の紙、紙製のS字フックといったプラスチック代替製品を製作しています。

≪レポート作成者≫
山梨学院大学　経営学部
鈴木竣佑（すずきしゅんすけ）

古屋ゼミナールでは本プロジェクトの他に2023年11月に行われたB1グランプリで甲府鳥もつ煮で皆様の縁をとりもつ隊のお手伝いとして直接三重県に行き、山梨県のPRを行ったり、市川三郷町と連携して神明の花火の来場者へふるさと納税についてPR等をしてきました。

取材前の私にとって、SDGsは「口にしている人はたくさんいるものの、実際に意識している人は少ない」というイメージでした。

2 マイプラ対策室

～主に行っている取り組み～

FSC認証がされている木材を使用

・森林管理協議会が定めた厳しい審査に合格した山梨県有林の木材のみを使用する
↓
持続可能な森林管理、森林環境保全を目指している

フォレストロー、やまなし森の紙を製作

・FSC認証を受けている木材を使用し、フォレストローややまなし森の紙、S字フックなど紙製品を製作する
↓
脱マイクロプラスチックへの貢献

積極的な障がい者雇用

・障がいのある方々でも活躍する事ができる場所を提供する
↓
誰もが大きく社会に貢献することができる
パートナーシップの構築

環境保全イベントでの出展

マイプラ対策室の製品をエコプロやモクコレといった森林環境に関するイベントに出展し、紹介する
↓
来場した人々がFSC 認証や脱マイクロプラスチックについて興味を持つ

3 マイプラ対策室

INTERVIEW

未来に向けた取り組み

マイプラ対策室とSDGs

学生　マイプラ対策室で紙製品を作り始めたきっかけを教えてください！

藤原さん　2018年にプラスチックによる環境汚染がクローズアップされ、ウミガメの鼻にプラスチックが刺さっているのを見て何かマイクロプラスチックを減らしていける事業がないかと考えた結果、今の仕事に繋がりました。また、私の出身地である山梨県の増富は田んぼや畑に囲まれている自然豊かな地域であるにも関わらずマイクロプラスチックに汚染されている事も挙げられます。

学生　なるほど、確かに2017年から2018年にかけて海に捨てられているマイクロプラスチックの量が約200トンから1200トンとなり、6倍ほど増えていますね。また、海の無い県でもマイクロプラスチックによる汚染が進んでいるのですね。マイプラ対策室さんでは紙ストローが売りの製品だと伺ったのですが何かこだわりはありますか？

藤原さん　マイプラ対策室で作っている紙ストローには、①1時間以上水に漬けてもふやけない、②ストロー自体がさらさらしており口当たりが良く、③口紅の色が付きにくい、紙の味やにおいがしにくい、④オリジナルのデザイン、⑤信頼の高い技術を使い高品質な製品であるといった5つのこだわりがあります。

学生　確かに黒をベースとした色合いがとてもかっこよく、口当たりも良いので女性も気を遣わずに飲めますね。その他に仕事を行う上でこだわっていることはありますか？

（次ページへ）

4 マイプラ対策室

藤原さん　私たちマイプラ対策室では「誰一人取り残さない」「パートナーシップでSDGsの課題達成」の理念の元、障がい者雇用を積極的に行っています。木のヤニ取りやドリルでの製品加工といった技術を磨き、障がいのある方でも社会に出た時に役立てる、自分らしく活躍し、そこから生きがいを創出して欲しいという願いがあり、中途半端な仕事をさせないことを大事にしています。

学生　そうなんですね！見せていただいた製品はどれも完璧な仕上がりで中途半端な仕事をさせないという信念が伝わってきます！また、障がい者雇用を行う事で誰もが活躍できる場を作るというところに心が惹かれました！

学生　それでは最後に、藤原さんの想いやこれからの考えを教えてください！

藤原さん　環境に優しい紙製品を作りマイクロプラスチックを削減していく上で「FSC認証」を普及する事です。日本ではまだまだFSC認証の知名度が低くプラスチックに依存している傾向があります。

だからこそ、SDGsフェア等でFSC認証を使った紙製品を紹介するブースを出す事でさらに知名度を高めていけたらみんなのマイクロプラスチック削減への意識を変えていけるのではないかと思います。

～取材をして～

マイクロプラスチックを削減するには、ただ紙製品を使うのではなく紙製品が作られる原材料にも目を向けていかないといけないということを知る事ができました。

活躍の場が少なくなってしまう障がいのある方でも障がい者雇用を行う事で誰もが平等に活躍のできる機会を作れるという所にとても魅力を感じました。

世界ではFSC認証商品を使うのが当たり前になってきているのに対し、日本ではFSC認証制度すら認知していない人が多い事を知ってFSC認証について興味を持っている人がまだまだ少ないと感じ、自分からも発信していきたいと思いました。

1 向山塗料株式会社

～塗料と住み続けられる町づくり～

向山塗料株式会社は令和5年で創業75周年を迎えた歴史ある会社です。

主な事業内容として建築塗料・塗装用機器等の卸販売、工業塗料及び薬品等の販売、家庭用塗料の小売販売、産業廃棄物の収集や運搬、日常雑貨の販売などを行っています。
また、それ以外にも「自分で塗りたいを応援する」をモットーに塗料教室やペイントスクールなども開催しています。

先代の社長の考え方や意志を受け継ぎおよそ20年前からSDGsの活動に意欲的に取り組んでいます。

≪レポート作成者≫
山梨学院大学　経営学部
渡辺すずな（わたなべすずな）

古屋ゼミナールでは『地域振興・商品開発』をテーマに学生が主体となり活動を行っています。

取材前の私にとってSDGsは「環境のためにできること」というイメージでした。

2 向山塗料株式会社

―2030年に向けたSDGsの取り組み―

社内でのSDGsに向けた取り組み

・毎月一回のSDGs会議を行う。
・会社内でチームに分かれ、チームごとに目標をたてSDGsに関する取り組みを行う。

塗料の販売

・遮熱塗料の販売
・自然塗料の販売
・超高耐候・高耐候塗料の提案
→建物を長期的に保護することで持続可能な社会に繋がる。

社会的取り組み

・ISO自己適合宣言
→ISOを取得した組織や企業は、地球環境へ配慮した企業活動を行っていると国際的に認められる。
・塗料教室・ペイントスクールの開催
→保護する、色を楽しむ

地球温暖化・エネルギー消費量削減への取り組み

・軽油、ガソリンの使用量削減
・電気使用量の削減
・廃棄物の削減
→コスト削減、資源の有効活用、CO2削減、化石燃料の使用量削減

3 向山塗料株式会社

学生　初めに取り組みのきっかけを教えてください。

向山塗料　先代の社長が環境意識の高い人で、環境問題に関する講演会に参加したことです。
講演を聞いている中で会社の中で何かをしなければならないという使命感や何かできることがないかという認識が生まれました。その中で会社としてできることを探した結果まず「ISO 14001」に取り組みました。

学生　SDGs活動の延長として取り組んでいる企業が多い中、向山塗料さんでは明確なきっかけや取り組みの土壌があり、事業に加えて意欲的にSDGsの活動に取り組んでいることがとても印象的でした。自分達で何か地球のためにできることはないかと積極的に動いており素晴らしいなと思いました。

次に、SDGsへの取り組みの中で特に力を入れていることは何ですか？

向山塗料　幅広く活動を行なっている中でも、会社として「住み続けられるまちづくり」を考えたときに高耐塗料・遮熱塗料・自然塗料などの機能的なものの販売を行うことに力を入れています。

INTERVIEW

未来に向けた取り組み

向山塗料店とSDGs

学生　今回お話を聞いて、初めて高耐塗料・遮熱塗料などの種類の塗料を知りました。こういった塗料の販売は建物をより長く保護したり、その建物内でのエネルギー消費の削減をしたりと環境保全に繋がっています。また、事業以外の活動にも企業の販売活動や強みをSDGsに繋げることができるのだと知り驚きました。

学生　SDGsに関するこれまでの活動の中で特に印象に残っていることは何でしょうか。

向山塗料　3チームに分かれて、チームごとにできることを考え実行するという活動が印象深かったです。
その取り組みの一環として3ヶ月に一回の地域のゴミ拾い活動を行なっています。歩いてゴミ拾いをすることで車を運転している時には気がつかないゴミに気が付くなど環境への意識が変わり、やりがいを感じています。

4 向山塗料株式会社

学生　向山塗料さんでは社員の皆さんにSDGsの活動について自ら考えさせるような取り組みを行っていました。このような小さな気づきが一人一人の意識の変化に繋がるのではないかと思います。
また、普段のガソリンや電気の使用量削減などの取り組みも行っており環境面から見ても、よりSDGsを身近に、より自分事として考えることができるのではないかと感じました。

学生　今後の目標・展望を教えてください。

向山塗料　現在、2030年を目標にSDGsの活動を行なっています。毎年チームを組んで活動するなど様々な事に取り組んでいますが、SDGsはとても幅が広いので、テーマに沿って一つ一つのことを丁寧に残りの年も取り組んでいきたいと思っています。

学生　ありがとうございました！

～取材をしてみて～

今回、取材をして、環境のために何かしたいという思いを継続していくことの大切さや一人一人が意識していくことの重要性を学びました。

また、向山塗料さんでは少数精鋭の中小企業だからこそ、会社全体で一丸となって活動に取り組んでいるように感じました。活動内容では「ISO14001宣言」をはじめ、社内でのグループ活動、エネルギー使用量のデータ化など幅広く取組を行っていましたが、通常業務がある中でどのように活動していくのかという点も一つの重要なポイントなのではないかと気が付きました。加えて、高耐塗料・遮熱塗料の販売など塗料店だからできるSDGsという視点からも活動を行なっており"どのような製品を販売するか"という所からもSDGsに繋げることができると知りました。

1 山梨ダイハツ販売株式会社

～個人でできることを企業単位で～

【特徴】

山梨ダイハツ販売株式会社は、山梨県甲府市横根町48番地に店舗があり従業員数は163名。1958年5月に山梨ダイハツの母体となる山梨ダイハツミゼット販売株式会社を設立し、1960年に現在地へ移転。自動車販売店ではあるが、ダイハツブランド共通の取組みテーマとして『地域密着活動』と題し、高齢者支援や災害支援、福祉活動、地域の集いステーションを目指した各種イベントの開催、スポーツを通した地域コミュニティ活性化など、地域貢献や社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

SDGsの観点では若者からお年寄りまでが安心して暮らしことができる地域づくりを目指すことを中心に、企業としてできることを地域に還元するスタイルをとっています。

お年寄りに関しては、まだまだ自動車が生活必需品である山梨県において、高齢のドライバーさん向けに安全に運転いただくための講座などを開催するとともに、免許返納後のサービス、一人暮らしの高齢者に向けての見守り協定なども行っています。

また、災害時、避難場所の提供や電気供給などの支援も行っています。

≪レポート作成者≫

山梨学院大学　法学部　石田　皓大（いしだ　こうた）

古屋ゼミナールでは課題解決型学習を行なっており
その中で私は地域資源の発掘と新たな名産品を生
み出し交流人口の増加を狙う活動を行っています。

取材前の私にとってSDGsは「食品や飢餓」という
イメージでした。

2 山梨ダイハツ販売株式会社

～企業で行う地域貢献～

健康安全運転講座

2019年から地域とつながるお店を目指し毎年活動を行っており、毎回約15名ほどが参加している。主に理学療法士様による体力測定や安全運転指導のほか、JAF様による運転姿勢や死角の確認、ダイハツの自動安全ブレーキ『 スマートアシスト 』の試乗体験などを行っている。

フードバンク山梨へ食品の寄付

フードバンク山梨様は、職場や家庭での余剰食品を集め、食品を必要としている施設や団体へ寄付することで、フードロスをボランティアに役立てる団体様です。山梨ダイハツでは定期的に社員から余剰食品を募い、寄附を続けている。また、何らかの理由で学校に通えない子供たちが社会で自立した生活を送ることを目標に職場体験を行っている。

スポーツを通した地域コミュニティの活性化

地元女子サッカーチーム『 FC ふじざくら山梨 』様の共創パートナーとして各種大会やサッカー教室を支援している。また、ダイハツブランドはバドミントンのサポートにも力を入れており、山梨ダイハツも小学生バドミントンの各種大会への協賛を行っている。

次世代型電動車椅子『 WHILL 』の取扱い

免許を返納された方達へもクルマに代わる移動手段をご提供することで、健やかな生活や社会参画への一助となれることを目指している。
免許返納後、家に引きこもってしまい健康な状態で過ごすことができなくなってしまうことを防ぐため、車に代わる交通手段として利用することができ、免許なしでも車に代わる乗り物の普及を目指し、新たな移動手段「WHILL」の取扱いを行っている。

3 山梨ダイハツ販売株式会社

INTERVIEW

未来に向けた取り組み

山梨ダイハツとSDGs

学生　SDGsに取り組むきっかけは何でしょうか。

ダイハツ　『 地域密着プロジェクト 』と題し、少子高齢化や地域活性化といった日本社会の課題に対し『いくつになっても自由に移動できる自立した生活 』をサポートする活動を地域のみなさまと共に取組んでおります。
その活動の一環としての様々な取組みが結果としてSDGs に繋がったと思います。

学生　ありがとうございます。御社のホームページを拝見していたのですが、活動ごとにSDGsのゴールを当てはめて掲載されています。最初からやることを決めてから活動されたのですか。

ダイハツ　様々な地域密着活動取を計画、実施していく中で、どのようなカタチでSDGs に貢献できているのか？を考えてきました。
また、他県のダイハツで行っていることを参考に山梨県でも行い、現在では山梨独自の活動も行っています。

学生　なるほど、山梨独自の活動とは何でしょうか。

ダイハツ　山梨独自の活動は「地域に寄り添う活動の一環として地域企業ではなく、SNS などで注目を集めている
地元の生産者様や農家様に参加いただいているダイハツマルシェです。
ダイハツマルシェでは地域の皆様を元気にすることを目的として山梨県で採れた野菜や果物、出来立てのパンを販売しております。こちらは2023年に第一回を開催し、1年間で4回開催しました。

学生　すごいですね。SDGsを行う上で苦労したことはなんでしたか。

ダイハツ　幅広い活動を行う中での準備や運営に苦労しました。また活動を行うにあたってダイハツだけではどうにもならない問題が発生した際に、どのようにしたら周りの企業や自治体に協力してもらえるか活動を理解していただけるかに苦労しています。

4 山梨ダイハツ販売株式会社

学生　地域密着的な活動を推進していて良かったと感じたことはありますか。

ダイハツ　「高齢者見守り協定」というものがあります。地域の高齢の方を対象に支援することとなっています。
一人暮らしをしている高齢の方が約束の時間になっても当店に来店をしませんでした。まさかと思いお客様の自宅を訪れたところ玄関で倒れてたことがありました。
自社の取組みに対してスタッフそれぞれの理解があったことで気付けた事例だと思います。

学生　地域密着を行っているから気づけたことですね。
最後にSDGs推進活動について伝えたいことはありますか

ダイハツ　少子高齢化が進む現在では健康安全運転講座のような機会はとても大切だと考えています。このような活動を行なっていることを様々な方達に知っていただきたいです。

ダイハツ　また、ダイハツ全体でサッカー教室やスポーツ大会を支援していることの認知度向上もはかりたいです。
ダイハツマルシェも2024年も実施する予定ですので、足を運んでいただけると嬉しいです。

～取材をして～

個人で行えることを企業レベルで行うこと、自動車販売会社としてできることだけではなく自動車会社だからこその地域密着に力を入れている。
車だけではなくスポーツ大会や食糧の寄付、登校支援など幅広い活動を行っていることを知ることができました。
また健康安全運転講座のようなイベント開催ではメーカーにとらわれずに活動を行っている点に関心を持ちました。
この取材を通して、このような活動が行われていることを地域の方に認知していただき、実際に参加していただくきっかけになればいいと思います。

1 蓬沢いきいきサロン

～多世代交流から生まれるつながり～

代表者は猪狩裕太さん、猪狩理沙さんのご夫婦で多世代・地域交流の居場所づくりを運営されています。

具体的には、高齢者、子供が一緒になって頭や体を動かす脳トレ、体操、スポーツ体験、工作、習字、雑学などの様々な企画、それらを交流会という形で会員の方や参加者に向け提供されています。また定期的に外部講師を招き、健康づくり講座、ヨガ体験等を行い参加者と共に自分たちも学べる機会を設けられています。

特徴は・・・
心の支えとなる場所であること。
高齢者に限らず、小さな子供から学生、社会人すべての人を対象としている。

≪レポート作成者≫
山梨学院大学　経営学部　　岡庭大和（おかにわ　やまと）

古屋ゼミナールでは『地域振興』をテーマに学生が主体となり活動を行っています。

取材前の私にとってSDGsは「関係ないもの」というイメージでした。

2 蓬沢いきいきサロン

―2030年に向けたSDGsの取り組み―

子供から大人まで

・毎週、月、火、木、金の13時30分から15時30分までの2時間の活動
・多世代による交流
・だれが来ても楽しめる企画
・コミュニケーションをとることが目的

多世代ごちゃまぜ健康まつり

・年に2度開催されるイベント
・参加者は500人前後
・多世代が一緒に笑い合える空間
・行政や企業とつながりをつくれる機会

助け合える世の中へ

・老後の人生で何かあった時、一人にはならないために地域住民の方とつながりをつくる
・人と話すことが一番安心を感じさせる

猪狩さんからのお言葉

「良い人や良いサービスは上手くつながらないとすたれてしまう。一人で一歩目を踏み出せない人、やりたいことがわからない人に向けて、行動するきっかけになる場所として全力でサポートします！」

3 蓬沢いきいきサロン

学生　まず初めにいきいきサロンの取り組みのきっかけを教えてください。

猪狩さん　元々介護の仕事をしていましたが、コロナ禍で地域の事業の縮小や家から出たくても出られない環境下で、自分たちにできることを探した時に地域で互いに共生できる場所を提供することを考え現在の活動に至りました。

学生　地域を明るくしたいという強い思いを感じました。活動して気づいたことはありますか？

猪狩さん　活動する中で、他世代の交流が少ない現状、家族との関わり方がわからない若者、うつ病、認知症に注目しました。この交流の場を通して新しい趣味や少しの息抜き、家族との話の種になれば

INTERVIEW

未来に向けた取り組み

猪狩さんとSDGs

学生　活動されている中でもっとも大切にされていることはありますか？

猪狩さん　つながりをつくることです。コミュニケーションを通してお互いの価値観を知り信頼関係を築くことができます。

学生　つながりですか。それはどのように重要なのでしょうか？

猪狩さん　人は一人では生きていけないので老後も安心して暮らせるように人間関係を構築していく必要があります。その一歩目を踏み出せない人に向けて、やりたいことのできる場所を提供し、趣味を見つけるきっかけ、誰一人取り残すことなく全力でサポートします！

4 蓬沢いきいきサロン

学生　このようなコミュニティが私たちに人と会話をすることの大切さを教えてくれるのだと傷づくことができました。

今後の目標・展望を教えてください。

猪狩さん　いつ誰でも好きな時にこの場所に集まれて好きなことができる場所にしたいと思っています。また、ここに留まらず、他地域、他県に飛び出して多世代交流の場所を作っていきたいです。

学生　ありがとうございました！

～取材をして～

始まりは3年前、コロナウイルスの影響により家から出たくても出られない環境にあり、地域の事業やコミュニティの縮小を目の当たりにした猪狩さん夫婦は自分たちにできることを探し、地域住民が一つになれる場所を作ることを決断されました。
猪狩さん主催の「多世代多地域ごちゃまぜ健康まつり」というイベントでは子供と大人が一緒に笑い合う穏やかでゆっくりとした時間が流れていました。まさにお二人が望んでいる空間がそこにはありました。ここまで作り上げることは決して簡単ではありません。ですが、これからも世代、地域を超え誰一人取り残さない社会を実現させるため、お二人は走り続けます。
未来はあなた自身です。みなさんが暮らしやすい世の中を一緒に作りましょう！

1 株式会社　YSKe-com

～SDGsに対するソリューション～

株式会社YSKe-comは山梨県甲府市に本社を構え、システム開発や、サーバー構築、導入支援、ハードウェアの販売などを行っています。
また、県との共同で農業用スマートグラスの開発なども行っています。

『質の高いソフトウェアは人間味豊かな人材が生み出す』という企業理念のもと、社内で運動会やお祭りを行うなど、コミュニケーションや人間関係を重視しています。

今回の甲府市SDGs推進パートナー登録のほか、やまなしSDGs推進企業、やまなし食品ロス削減推進パートナー、また、経済産業省による「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選定されるなど、環境保護等に対しても積極的に取り組んでいます。

≪レポート作成者≫
山梨学院大学　経営学部
角田雄紀（つのだゆうき）

古屋ゼミナールでは『地域振興』をテーマに学生が主体となり活動を行っています。

取材前の私にとってSDGsは「エコ活動」というイメージでした。

2 株式会社　YSKe-com

―YSKe-comのSDGs達成に向けた5つの柱―

コンプライアンス

すべての事業において、法令のみならず、社会規範、企業倫理、社内ルールを遵守し、適正かつ良識のある企業活動を行っている。

働きやすい環境づくり

有給休暇や育児休暇の取得促進、女性管理職の積極的な登用、再雇用など、すべての従業員が働きやすい環境づくりに努めている。

人権と多様性の尊重

人権の尊重は、欠かすことのできない企業運営の基本であり、ステークホルダーすべての人権を守ることを目指している。

環境への取り組み

事業活動において、エネルギーや紙などの使用量、CO2や廃棄物などの排出量を削減し、環境負荷の低減に努めている。

社会福祉活動

表彰状

株式会社ＹＳＫ e-com 殿

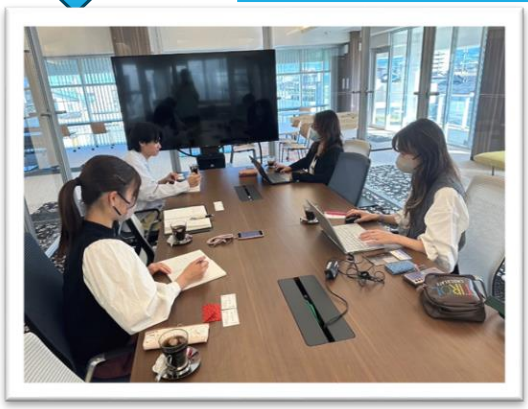
貴殿は献血の推進に積極的に尽力され多大の貢献をされました　その功績は誠に顕著でありますので表彰します

平成27年9月13日

山梨県知事　後藤

社会貢献活動や地域の文化振興に資する活動などを通じ、よりよいコミュニティ・社会の実現に貢献している。

3 株式会社　YSKe-com



INTERVIEW

未来に向けた取り組み

YSKe-comとSDGs

学生　まず、SDGsに対する主な取組を教えてください。

YSKe-com　フードドライブや、カレンダーなどの日用品の寄付を行っています。また、月に2回、地域清掃を行ったり、「おゆずり会」と呼ばれる、各家庭の使わない日用品の交換会を行っています。さらに、「ポイント制度」を導入しています。

学生　なるほど、様々な取り組みを行う中で環境だけでなく、社内コミュニケーションの活発化にも繋がるような取り組みをなされているのですね。
最後の「ポイント制度」についてもう少し詳しく伺ってもよろしいですか？

YSKe-com　ポイント制度とは、テレワークを行う、公共交通機関を利用するなど、環境に対して何らかのアクションをした者がポイントを取得することができる制度です。

YSKe-com　貯まったポイントは家電などに交換することができます。
また、同僚や業務の手伝いをしてくれた方などへ、感謝のメッセージを添えたポイントを贈り合うこともでき、社内コミュニケーションを活性化し、より一体感のある組織づくりに大きく貢献しています。

学生　楽しみながらSDGsに貢献できそうで良いですね！
こういった取り組みや、SDGs宣言を行ったきっかけはありますか？

YSKe-com　取り組み自体は宣言前から行っており、山梨日日新聞の記事がきっかけでSDGs宣言を行いました。
そのため、宣言をしたからといって新たに始めた取り組みはなく、前々からの取り組みを継続させていくことを重視しています。

学生　継続…新たな取り組みを行う事と同じくらい大切で、難しいことですね。

4 株式会社　YSKe-com

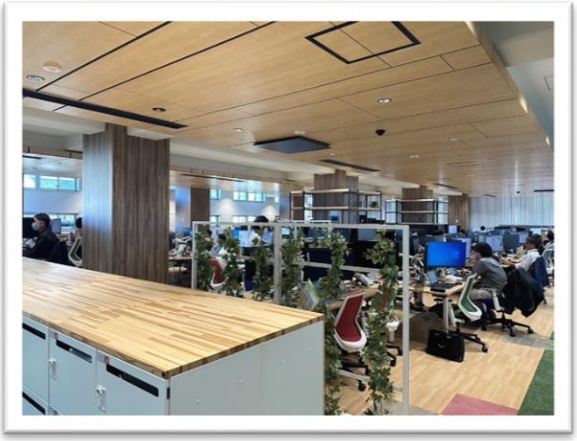
学生　こういった取り組みを継続させていくためにどういった方法で推進されているのですか？

YSKe-com　SDGsに関する情報を、社内向けのメールや社内通信を活用して、推進を行っています。

また、社外についてはブログや社報などを活用し発信しています。

学生　社内通信など、必ず目にする場所での情報発信はとても良い方法ですね。
最後に、これからの取り組みや挑戦したいことを教えてください。

YSKe-com　「ポイント制度」などを活用しながら、小さなこと・身近なことでもいいから、少しずつでもアクションを行っていきたいなと思っています。
また現在、社用車の電気自動車化を図っており、これを全台行うことを直近の目標としています。



～取材をして～

SDGsに対する取り組みを行うだけでなく、継続させていくということがとても重要だと感じました。
また、ゲーム感覚で楽しみながらSDGsに取り組むことができる「ポイント制度」は、多くの組織で取り入れることができれば良いと感じました。

特に、貯まったポイントの交換先を家電や、お菓子、レクリエーションの時間などにすると、SDGsについての理解が難しい子どもなどにも効果的だと思いました。

さらに、SDGsは「エコ活動」だけでなく、すべての人が安全に、快適に過ごしていくための目標でもあるということが今回の取材を通してわかりました。

私もYSKe-com様のように、小さなこと・身近なことから、少しずつでもアクションを起こしていこうと思いました。